

- 題名の「きよら」は病院の清潔なイメージや医療の透明性、そして心の美しさを表し、柔らかくやさしい書体はやすらぎと信頼を表現しています。
- 写真については、広報用にマスクを外して撮影しているものがあります。

きよら



特集

断らない救急

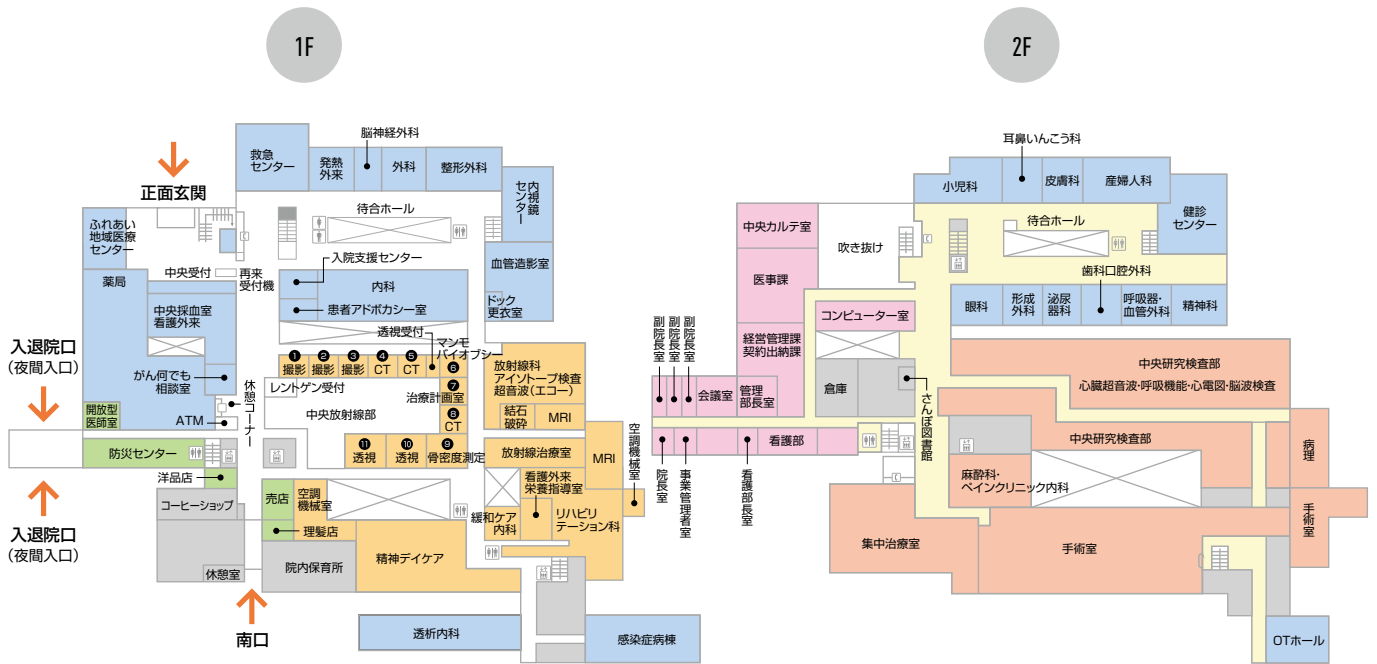
救急センター：より多くの患者さんを救うために

外科系救急：救急における外科系疾患、増える高齢者の「骨折」

小児救急：地域で存在感が増す市民病院の小児救急

Floor Guide

案内図



	外来診療棟	西病棟	東病棟	南病棟
8F		心臓リハビリテーション室	病室 東801~827	8F
7F		病室 西701~723	病室 東701~725	7F
6F		病室 西601~621	病室 東601~625	6F
5F		病室 西501~526	病室 東501~527	5F
4F		病室 西401~426	4階リハビリテーション 治療支援センター	病室 南401~425
3F	講堂 図書室 医局	病室 西301~320	病室 東301~321 外来治療室	病室 南301~321
2F	管理部長室 経営管理課 契約出納課 医事課	事業管理者室 院長室 副院長室 看護部長室 看護課事務室 電話交換室	検査部 麻酔科 ペインクリニック内科 集中治療室 手術部 医療マネジメント室 感染防止対策室	活動療法棟 OTホール
1F	玄関ホール 総合案内 中央受付 ふれあい地域医療センター 中央採血室 看護外来 薬局 がん何でも相談室	救急センター 発熱外来 脳神経外科 外科・乳腺外科 整形外科・関節再建外科 内科 内視鏡センター 血管造影室 アドボカシー(患者支援)室 医療安全管理室 入院支援センター	売店 防災センター コーヒESHOP レントゲン 放射線科(治療・診断) リハビリテーション 精神デイケア 緩和ケア内科 看護外来 栄養指導室	感染症病棟 透析センター
B1F		薬品管理事務室 霊安室 剖検室	中央リネン室 栄養科	B1F



No. 110

2023年10月号

Contents

発行

富山市立富山市民病院
広報委員会

〒939-8511

富山市今泉北部町2-1

TEL. 076-422-1112

FAX. 076-422-1371

<https://www.tch.toyama.toyama.jp/>



富山市立富山市民病院



日本医療機能評価機構

特集 Special Feature

断らない救急

救急センター：

より多くの患者さんを救うために

[インタビュー] 救急・総合診療センター部長／打越 学 医師
救急科看護師長／島 佳子 看護師

02

外科系救急：

救急における外科系疾患、増える高齢者の「骨折」

[インタビュー] 救急診療部主任部長／堀井 健志 医師

07

小児救急：

地域で存在感が増す市民病院の小児救急

[インタビュー] 小児科部長／和田 拓也 医師

09

Seminar

富山市民病院公開講座「第32回ふれあいセミナー」のご案内 11

Topics

「さんぽ図書館」を再開しました

科学博物館・市民病院連携イベント「人体を知ろう」を開催しました 12

高校生のお仕事体験を行いました（看護師・薬剤師）

「看護師就職ガイダンス」を行いました

13

救急科看護師長

島^{しま}

佳子^{よしこ}

看護師

救急・総合診療センター部長

打越^{うちこし}

学^{まなぶ}

医師

特集

断らない救急

～より多くの患者さんを救うために～

いつ運ばれてくるとも知れない救急患者に対し、迅速かつ適切な処置が求められる『救急センター』。市民病院では、これまで以上に“断らない救急”を合言葉として、受け入れ体制の強化をはかり、日々多くの患者の命に向き合っている。その現場について、救急・総合診療センター部長の打越医師と、救急科の島看護師長に話を聞く。

富山医療圏の救急医療システム

Q. 救急センターでは、どのような患者さんを受け入れているのですか？

打越 まず、富山医療圏の救急医療システムについてご説明します。

軽症で入院治療の必要のない患者さんに対応するのが、「一次救急」で、各診療所やかかりつけ医、富山市・医師会急患センターなどがそれを担います。

急患センターは、当院と同じ敷地内にありますが別の医療機関で、当院は、「二次救急」病院です。症状が重く一次救急の現場から紹介されてきた方や、119番通報により救急車で搬送されてきた患者さんを受け入れています。

休日と診療時間外に関しては、当院ほか、富山県立中央病院、富山赤十字病院、済生会富山病院、富山大学附属病院が輪番制で救急にあたっています。さらに重篤な方については、「三次救急」として、富山県立中央病院と富山大学附属病院が対応しています。

センターのスタッフ体制

Q. スタッフの体制はどうなっていますか？



非輪番日は、当直の看護師1名と師長1名が電話対応し、医師との連絡にあたっています。

動きやすく、 整理整頓された空間

Q. 救急センター内は、どんな空間になっていますか？

打越 搬送入口から直線で結ばれた特殊処置室は、処置に必要なものがすぐに取り出せるよう、引き出しにありとあらゆるものが収納されています。その途中には、治療の妨げにならないよう、身体の汚れた状態の患者さんをベッドに寝たままきれいにできるシャワー室や小手術室があります。また、中央のナースセンターを囲むように、カーテンで仕切ることができると診察室が4つ、小児用や感染症の方を診る陰圧診察室が3つ配置され、どの患者さんにも目が届くよう設計されています。

いつ患者さんが来られてもいいように、常に整理整頓し、清掃が行き届いた空間を保つようにしています。

島 患者さんがいらっしやらない時は、スタッフの笑みもこぼれ、和やかな雰囲気のある救急センターですが、電話が鳴るとピリッと空気が変わり、それぞれが冷静かつ速やかに受け入れ準備を進めます。

Q. 最初の電話は看護師さんが受けるのですか？

島 はい。救急隊員の方から、あるいは、患者さんが直接来られる場合も、事前にお電話はいただきますので、時間がない中でもできるだけ情報収集し、どんな病気が原因と考えられるのか、知識と経験で総動員し、何科の医師に繋がればよいかなどを判断します。

そして、すぐに患者さんはやってくるので、スタッフ間で情報を共有し、即座に受け入れ態勢を整えます。



打越 平日の日中は、半日交代で内科医が2名、外科系担当医が1名、また、常駐はしていませんが小児科ほか各科の医師も、必要な時は駆けつけることができます。

夜間・休日は、内科医が2名、外科系担当医が1名、小児科医1名、麻酔科医1名、CT検査の読影のために放射線科医1名も待機し、その他研修医が数名加わります。

島 看護師については、輪番日は、準夜勤（16時～24時半）が7名、深夜勤（24時～8時半）が4名、休日の日中は8名で、それぞれに師長1名が加わります。



集中治療室でも経験を積んだ 「集中ケア認定看護師」

Q. 大変重要な役割ですね。島さんは、「集中ケア認定看護師」の資格をお持ちだそうです。それも生かされているのでしょうか？

島 そうですね。「集中ケア認定看護師」は、過大な侵襲（ダメージ）を受け、生命の危機にある患者さんに対して、さまざまなモニタリングや評価を行い病態の変化をとらえ、重症化や合併症を防ぐためのケアや、スタッフへの提言をすることが役割とされています。

こちらに配属される前は、集中治療部門に所属していました。救急センターとこちらの現場にも共通する心得かと思えますので、今後も勉強を怠らず、研鑽を積みみたいと思います。

救急搬送者は増加傾向

Q. どれぐらいの患者さんが搬送されてくるのでしょうか？

打越 今年度の4月～6月の3か月間をみてみると、当院では、各月540件前後の救急車による搬送者を受け入れています。2022年度と比較すると、どの月も約130件増えていることとなります。

Q. 搬送者はなぜ増えているのでしょうか？

打越 超高齢社会による影響が大きいかと思えます。転んでケガをされたり、夏には熱中症、冬には脳卒中や心筋梗塞が起こりやすいなど、お歳を召されると何気ない日常の中でもリスクが増えています。

当然ながら、様々な年代の方が助けを求めているらっしゃいますので、全体として、今後も救急搬送される患者さんは増えることが予想されます。これは全国的な傾向で、都会ではすでに救急車が不足したり、たらい回しになるケースもあるようですが、富山では、今のところ比較的短い時間で病院に搬送

されているようです。



重症度を見極める「トリアージ」

Q. 救急患者さんが重なる場合は、どうしているのでしょうか？

打越 最近では耳にされる機会も増えたかと思いますが、まずは、重症度や治療の緊急度に応じて傷病者



を振り分ける「トリアージ」が重要ですね。

救急センターでは、必ずしも受付順ではなく、重症の患者さんを優先します。診察の順番が入れ替わったり、軽症の患者さんをお待たせする場合もあることを、どうぞご理解ください。

Q. 実際、規模の大きな事故などで、複数の患者さんを同時に受け入れた経験もありますか？

打越 大規模ではありませんが、最近ですと、今年7月30日に立山町で登山客を乗せたマイクロバスが横転した事故がありました。当院が当番日でしたので、ドクターヘリと連携して、富山県立中央病院と分け合う形で乗客数名を受け入れました。命に別状はなかったものの、こうした交通事故や複数台が絡む多重事故はいつ起こってもおかしくありませんし、夏場は登山中や、川や海での事故も増えるので、気を引き締めています。

大規模災害を想定した訓練も実施

Q. 最近、全国的に大規模な自然災害も増えていきますね。

打越 そうですね。当院では、大規模な地震や台風豪雨といった自然災害により、多くの傷病者が出た

ことなどを想定した訓練を毎年実施しています。ボランティアの方にもお力添えをいただくため、ここ数年は規模を縮小していましたが、今年はコロナ禍前の規模での訓練を11月に予定しています。隣県で地震が頻発しましたし、異常気象も増えているので、万が一に備えてしっかり初動体制や連携の再確認をしたいと考えています。

熱中症か？ コロナか？

Q. 今年の猛暑では、熱中症患者の方も多かったのではないのでしょうか？

打越 はい。例年以上に猛暑が続きましたので、この夏は熱中症患者さんが多く搬送されてきました。そして、新型コロナウイルスの流行が第9波入りしたとの報道もあったように、市内でも感染者が一期よりも増え、似たような症状で運ばれる方が相次ぎました。

事前に得られた情報で、新型コロナウイルスの可能性があると判断した場合は、スタッフも完全防衛体制で患者さんを迎え入れ、抗原検査を実施しながら、救急にあたっています。不用意に病棟にウイルスを持ち込むことがないように、室内の気圧を低くした陰圧室を利用し、細心の注意を払って診察しています。

「ベッドコントロール」が 受け入れの鍵

Q. 断らない救急を実践していくためには、何が大切ですか？

打越 次々に受け入れていくためには、救急センターに患者さんを溜めないことが一番です。ですから、救急だけで頑張るのではなく、処置のあとには、なるべく速やかに患者さんに病棟にお移りいただき、ここでの滞在時間を短くするよう努めています。

救急センターが満床の場合は、どうしても応需(受け入れ)が難しくなります。日頃からの「ベッドコントロール」が大変重要で、病床管理部門と連絡を取り合い、感染症や認知症など、さまざまなケースに配慮しながら、然るべきお部屋に引き継いでいます。

Q. コロナ禍では、病床の確保も大変だったのではないのでしょうか？

島 新型コロナが5類に移行する前は、厳格なゾーニングで病棟を空けておかなければならず、ベッドのやりくりは特に大変でしたが、陰圧しウイルスを外に流出させない感染症個室対応となった現在も、当院ではかなり厳しい基準で予防線を張り、クラスターの発生を防いでいます。

ご家族のフォローも大切に

Q. 打越先生は、どんなことを心がけて診察にあたっていますか？

打越 話せない、意識がないなどで、ご本人が意志決定できないケースもあり、治療の選択や延命をすすめる・しないなど、命にかかわる厳しいお話をご家族としなければならぬことがあります。患者さん自身をないがしろにしないの言うまでもありませんが、ご家族へのフォローもとても大切だと思っています。

乗り越えられるような関わり方

Q. 島さんはいかがですか？

島 一刻を争う場面でも、患者さんのお身体だけを見て処置にあたるのではなく、気持ちに寄り添えたらと思っています。また、付き添われてきたご家族も、突然のことですぞ不安なことと思いますので、難しい医療用語を分かりやすく補足で説明したり、なるべく状況をお伝えするようにしています。

どんな時もそうですが、患者さんもご家族も、受け入れて乗り越えるのはご自身でしかないのです。こちらとしては、乗り越えられるような関わり方、お手伝いをしたいと考えています。

一人でも多く

地域の方を助けたい

打越 私共としましては、とにかく地域の方を一人でも多く助けたい、と願う一心で、断らない救急を追求しています。

手術が重なったり、対応できる医師がいないう等、無理に受け入れても患者さんのためにならないと判断できる場合など、お断りすることがないとは言えませんが、限りなく不応需がゼロに近づくよう、これからも話し合いながら工夫し、それぞれスキルアップしてまいります。



救急における外科系疾患 増える高齢者の「骨折」

救急センターの概要と、主に内科領域の話題に続き、救急診療部主任部長で、整形外科部長でもある堀井医師に、救急患者に多い外科領域の疾患についてインタビューする。



救急診療部主任部長
堀井 健志 医師

増える高齢者の搬送

Q. ケガで運ばれることが多いのはどんな年代ですか？

堀井 お子さんにお若い方、働き盛りの世代、いろいろな方たちの救急にあたりますが、打越医師からもお話があったように、やはりご高齢の方が目立ちますね。超高齢社会が進行し、90歳、100歳を超える方が搬送されてくることも珍しくなくなりました。

日常生活にこそ危険がある

Q. 救急搬送される患者さんは、どこでケガを負うことが多いのでしょうか？

堀井 交通事故も少なくありませんし、職場、学校スポーツ、レジャーシーンでの事故など、ケガを負う場面はさまざまありますが、ご高齢の方では、ご家庭や入所施設など、日常生活の何気ないシーンでケガを負われる方が多いです。

一番多いのは大腿骨の骨折

Q. どんなケガが多いのですか？

堀井 一番多いのは骨折です。家の中や施設内で転んだり、ベッドから落ちたりして、特に股関節まわり、大腿骨近位部（だいたいこつきんいぶ）が折れて搬送されるケースが増えています。

Q. その場合、どのように治療が行われますか？

堀井 もともと歩くことができていた方の場合、歩行能力の回復のためには手術が必要になります。とは言え、救急患者さんの場合は予定していないことですので、数年前までは、手術までに4〜5日ほど要していました。それが最近では、クリニカルパスⅡ診療計画表に従って、持病があるかないかなど内科的な精査などを経ても、早ければ数時間後に、遅くとも1〜2日以内には、手術を行うようになっています。

早期手術でリハビリも同時進行

Q. 手術を急ぐのは、どうしてですか？

堀井 これは救急患者さんに限ったことではないのですが、それまでお元気だった高齢の方が入院された場合、手術までの待ち時間が長くなると急速に身体が弱くなって、誤嚥性肺炎にかかったり、褥瘡（じよくそう）いわゆる「床ずれ」ができたりします。また、いつもと違った環境に置かれることによって、認知症が進んでしまったり、せん妄などの精神機能障害が発生しやすくなったりすることが分かっています。

合併症が進むのを防ぎ、元のADL（日常生活動作）を取り戻すためにも、早期手術をし、また同時進行で一日も早くリハビリを開始することが重要なのです。

Q. スピード感のある治療は、病院側の努力によるところが大きいですね。

堀井 欧米では早くからその効果の大きさが認識されていましたが、日本国内では、なかなか実現できない病院が多かったところ、当院はかなり早い時期からスピーディーな治療計画を標準化してきました。患者さんのその後の人生、寿命にも大きく関わることなので、院全体で大切にしている指針です。

待たずに救急車要請を

Q. では、患者さんもなるべく早く医療機関を頼ったほうがいいですね。

堀井 はい。大腿骨の骨折であれば動くことができませので、すぐに病院へとなると思いますが、例えば、尻もちをついて腰やお尻のあたりが痛くなった場合、いわゆる圧迫骨折に加えて、骨粗鬆症に伴う脆弱性骨盤骨折を生じる高齢者が増えています。一晩様子をみているうちに、どんどん状況が悪くなっていくこともあります。

ご家族と同居されている方も一人暮らしの方も、迷うようであれば、すぐに救急車を呼んでください。

凍結や雪による転倒にご注意！

Q. 季節によって、ケガが増えるということはありませんか？

堀井 内科領域ほど季節による差はないかもしれませんが、どちらかと言いつつ、暑いよりも寒い時期のほうがケガは増える傾向にあるのではないかと思います。身体がこわばりやすく、凍った場所で足を滑らせたり、雪道で手をついたりといったようなアクシデントが起こりやすいため、冬場は注意が必要です。

イメージでできる治療説明を

Q. 堀井先生は、診察や治療でどんなことを大切にされていますか？

堀井 出血していないからといって重症でないとは限りませんし、ご本人から状況をお聞きするのが難しい時は、発見者の方からよくお話をお聞きます。また、こちらから説明をする時は、ご本人だけではなく付き添いの方にもなるべく治療のイメージができるような話し方を心がけています。

どんな時も患者さんの目線で考える

Q. 断らない救急、についても、お考えを聞かせてください。

堀井 お困りである以上は、可能な限り早くお助けしたいと、常日頃思いながら救急診療にあたっています。人員的なことや手術の予約状況などによって、無責任な受け入れはできませんが、どんな時も患者さんの目線で考えて行動しています。

今後積極的に救急患者さんを助けられるよう、自分たちの努力で変えられることを探していきたいと思っています。

地域で存在感が増す 市民病院の小児救急

一般とは事情が変わる小児救急。
市民病院では子どもの輪番日が増え、地域での存在感が増しているという。
小児科部長の和田医師に話を聞いた。



小児科部長
和田拓也 医師

こどもの救急の特徴

Q. 救急センターを利用するお子さんにはどんな症状が多いですか？

和田 小児救急では、中学生までを対象としています。日中ですと、公園や保育所、学校などから、ケガや熱中症で運ばれてきたり、夜間ですと、お子さんが急に痙攣を起こしたのを見て、驚いて救急車を要請される親御さんが多いです。

もし、痙攣を起こしたら

Q. お子さんが痙攣を起こした場合、まずどんな対処をすべきですか？

和田 倒れて頭を打ったりしないように場所に気を

つけること、また仰向けで吐いたりした場合に嘔吐物で窒息することがないように、横向きに寝かせるなど姿勢にも気をつけてください。

高熱に動揺して、すぐに救急車を呼んでしまうお父さんお母さんもいらっしゃるのですが、ちゃんと眠っていて、水分が十分摂れているのであれば、様子を見ていい場合があります。必ずしも熱が高ければ危険ということはありません。

判断に迷う時は

子ども医療電話相談#8000

Q. 病院へ行くべきか迷う場合は、どうしたらよいでしょうか？

和田 初めての子育てで知識もない中、ご不安になるお気持ちはよく分かります。ただ、いくら少子化が進んでも子どもの急患が減っているわけではなく、電話相談だけでもパンク状態というのが実情です。

病院へ行ったほうがよいか迷われる場合は、まず「子ども医療電話相談」(#80000)を利用されることをおすすめします。

集約化が進む

小児科の輪番体制

Q. 小児科の輪番体制はどうなっていますか？

和田 富山医療圏の二次救急は、最初にお話があったとおり、富山大学附属病院、富山県立中央病院、済生会富山病院、富山赤十字病院と当院が、輪番で担っています。

しかし、小児救急については少し事情が違います。令和3年4月に済生会富山病院が小児科を廃止し、令和4年4月からは富山赤十字病院が輪番から外れたため、その分の小児救急患者を富山県立中央病院と当院が分担する形で維持することとなりました。

さらに、令和3年4月から、一次救急を担う富山市・医師会急患センターの診療時間が24時まで短縮され、小児救急医療は集約化が進んでいます。

Q. 背景にはどんな事情があるのでしょうか？

和田 開業医の方の高齢化が進み、また働き方改革の影響もあって、小児科医は不足しています。富山県は、富山・新川・高岡・砺波の4つの医療圏で構成されているのですが、将来的には、医療圏ごとの体制維持も困難になるのではと懸念されています。

子どもの命を未来に繋ぐ喜び

Q. 和田先生はなぜ小児科を選ばれたのですか？

和田 小児科は、大人のように臓器ごとに特化した診療科に分かれておらず、全身を総合的に診療できる点が私にとっては魅力でした。また、当院での治療を終え、未来あるお子さんを元気な笑顔で日常生活へお返しできた時は、無上の喜びを感じます。

小さくて大切な命をお預かりするので、ただ子どもが好きなだけでは乗り越えられない難しさがありますが、これから何十年と生きていくお子さんの人生の中で、その人生を繋ぐことができるというのは、大変やりがいのある仕事だと思っています。

Q. 日頃、患者さんのどんなところを注意して診ていますか？

和田 待合室から診察室に入るまでの様子もしっかり見ています。泣き叫んでいれば意識レベルはあるということですが、まったく反応を示さない場合は緊急性が高いかもしれませんし、お母さんをちゃんと認識できているか、会話できるのかなど、そういったところを確認するようにしています。また、安定しているように見えても、急変することがあるので、小さな変化を見逃さないことが肝心ですね。

Q. 保護者の方には、どんな風に接していらっしゃいますか？

和田 気が動転されていることもありませうので、保護者の理解が置いてきぼりにならないように配慮しています。

私自身、時間的な余裕がない中で、ベストの答えを出さなければならぬプレッシャーもありますが、常に冷静さを保つようにしています。

小児救急体制を守り抜くために

Q. 市民病院が果たすべき役割は、大変大きいですね。

和田 はい。通常の輪番日がひと月に8〜9回あるのに加えて、小児輪番が3〜4回まわってきます。輪番日が増えたことで、小児救急にそれまであまり従事してこなかったスタッフも携わる機会が増えているので、スタッフの育成も含めてシステム作りをする必要があると考えています。

今の救急体制を守り抜くためにも、小児医療を当院の強みとして、地域での役割を果たしていきたいと思っています。

富山市民病院公開講座

第32回 ふれあいセミナー

今だから知りたい！

ワクチンで防げる いろんな病気
～アフターコロナ時代の感染対策～

コロナ禍を経て4年ぶりの対面開催です。市民病院の職員による講演のほか、AEDの実演も行います。

新型コロナウイルスでも注目を浴びた「ワクチン」は、様々な病気から私たちを守ってくれます。この機会にワクチンについて学んでみませんか。

日時

10/29 日

10:00～12:00

(開場9:30～)

場所

ファーストバンク キラリホール
(TOYAMAキラリ9階:富山市西町)

※無料駐車場はありません。公共交通機関や、周辺の有料駐車場を利用してください。

費用・申込
不要です

講演 1

アフターコロナの感染対策

感染防止対策室 いちのやま一ノ山 たくや拓也 看護師

講演 2

女性のライフステージとワクチンのお話

産婦人科 たなか田中 ともこ智子 医師

講演 3

健康寿命を延ばすワクチンのお話

感染症内科 かわすじ川筋 ひとし仁史 医師 (富山大学感染症科 助教)

※講演内容は変更になる場合がございます。

01 TOPIC

「さんぽ図書館」を再開しました

コロナ禍で休館していた「さんぽ図書館（患者図書室）」を8月2日から再開しました。

さんぽ図書館は、2004年1月にオープンし、市民ボランティアの方々のご協力のもと、患者さんの入院生活において、本を手にとることによって潤いやゆとり、安らぎを感じてもらうことを目的に運営しています。また、医療図書も充実しており、患者さんの健康や医療の知識を深めていただくとともに、治療への参加や自己決定を支援する一助となればと思っています。

入院患者さんだけでなく、そのご家族もご利用いただけますので、ぜひお気軽にお立ち寄りください。



開館時間	週3日（月・水・金曜日） 14時～16時
場所	市民病院2階（中央検査部の前）
蔵書数	約1,500冊 雑誌や小説をはじめ、漫画なども取り揃えています。

02 TOPIC

科学博物館・市民病院連携イベント 「人体を知ろう」を開催しました

小中学生を対象とした科学博物館・市民病院連携イベント「人体を知ろう」を7月22日（土）に開催しました。コロナ禍を経て4年振りの開催となったイベントには、抽選で選ばれた小学5年生から中学3年生21名とご家族に参加いただきました。

科学博物館学芸員や市民病院職員を講師に、医療や科学を身近に感じてもらうと多くの体験学習をご用意しました。外科・内科・眼科で使われる医療機器を操作したり、超音波（エコー）で心臓の動きを見たり、車椅子に乗って段差のある道を移動したり、日頃は触れることのない機器の扱いに苦労しながらも、上手く操作できると歓声が上がると大いに盛り上がりました。

今回のイベントを通して、医療や科学技術への興味・関心を高めていただき、将来の職業選択を考える一助となれば幸いです。



03/①
TOPIC

「高校生の一日看護見学」を行いました

7月7日(金)・14日(金)に「高校生の一日看護見学」を開催しました。このイベントは、高校生が看護に対する理解を深め、進路選択の参考にしてもらうために毎年実施しています。今年は、両日とも15名の県内高校生が参加しました。



施設見学のあと、看護体験(手洗い・防護具の着脱・沐浴・一次救命処置の実施など)、座談会、進路指導を行いました。この体験を通して、「さらに看護師になりたいという気持ちが強くなった」「責任感の強い看護師になりたい」などの意見があり、将来の後輩への期待が高まりました。

03/②
TOPIC

「薬剤師のお仕事体験学習」を行いました

8月2日(水)に「薬剤師のお仕事体験学習」を実施しました。県東部から5名の高校生が参加し、散剤の計量・分包や計数調剤、処方監査(処方内容の確認)、一包化された持参薬の鑑別、TDM(血中濃度解析)シュミレーションソフトを利用した抗菌薬の投与設計・処方提案など、病院薬剤師の日常業務を体験し、抗がん剤の無菌調製を行うミキシング室や病棟の見学を行いました。



この体験学習を通じて、薬剤師をより身近に感じ、医薬品や薬剤師の仕事に興味と理解を深め、将来の進路選択の一つになればと思います。

04
TOPIC

「看護師就職ガイダンス」を行いました

8月22日(火)に「看護師就職ガイダンス」を開催しました。これは急性期病院への就職を希望する看護職及び看護学生に、市民病院や看護部の方針、看護師教育への理解を深め、病棟での体験や職員との意見交換を通して看護現場のイメージを掴んでもらうことを目的に行いました。

県内の看護学生15名が参加し、病棟体験では『看護師同士がしっかりと情報交換を行っているのが良かった』との意見や、座談会では就職試験や看護師免許国家試験対策、実際に働いている感想などを先輩看護師に質問し、『参考になった』『参加して良かった』との声が聞かれました。今後看護師として活躍していく学生たちが、自分の将来を想像できる場になれば幸いです。



ふれあい健康講座

申し込み・参加費は不要です。まちなか総合ケアセンターへ直接お越しください。

●開催時間/各回13:30～(30分程度) ●会場/まちなか総合ケアセンター(総曲輪4丁目)

10 OCTOBER

- 2月 骨粗しょう症シリーズⅠ 看護師が話す
骨粗しょう症ってなに?
- 3火 腎臓を守ろう
- 4水 骨粗しょう症シリーズⅡ 栄養士が話す
コツコツ続ける
骨粗しょう症を予防する食事
- 5木 高血糖が危ない
血糖値ってなぜあがるの?
- 10火 防ごう! 子どもの事故
- 11水 その尿取りパットは合っていますか?
～軽度失禁パットの種類・選び方～
- 12木 慢性腎臓病と高血圧
- 16月 骨粗しょう症シリーズⅢ
理学療法士が話す
やってみよう! 骨を強くする運動
- 17火 骨粗しょう症シリーズⅣ 薬剤師が話す
骨粗しょう症のお薬について
- 18水 レントゲン検査の種類
- 19木 乳がん検診を受けましょう
- 23月 それって認知症?
- 24火 検査結果の見方
- 25水 ★ママと赤ちゃんのための
産後エクササイズ
- 26木 大腸がんの薬物療法

11 NOVEMBER

- 2木 世界糖尿病デーシリーズ
糖尿病専門医が語る
「糖尿病って治るの?それって嘘?本当?」
- 6月 かぜを防ごう
- 7火 世界糖尿病デーシリーズ
薬剤師から学ぼう
「糖尿病のお薬について」
- 8水 大腸がんの見つけ方
- 9木 世界糖尿病デーシリーズ
糖尿病看護認定看護師が話す
「糖尿病予防のミラクルマニュアル」
- 13月 世界糖尿病デーシリーズ
管理栄養士が教える
「糖尿病を予防する食事」
- 14火 世界糖尿病デーシリーズ
理学療法士から学ぼう
「誰にでもできる効果的な運動療法」
- 15水 医療費について
- 16木 求められる祖父母力!! 今と昔
沐浴・衣類・抱き癖・スキンケアなど
- 20月 誤嚥性肺炎について
- 21火 身近な人ががんになったら
家族むづらいよ
- 22水 ★ママと赤ちゃんのための
産後エクササイズ
- 27月 認知症の人の見えている世界

12 DECEMBER

- 4月 超音波検査(総論)について
- 5火 腎臓を守ろう
- 6水 心不全との上手な付き合い方
- 7木 糖尿病は万病のもと
糖尿病の合併症ってなに
- 11月 エコノミークラス症候群について
- 12火 子どもの心肺蘇生法
- 13水 ちょっと待って!
その尿漏れほおっておいても大丈夫?
- 14木 いざという時の応急処置
- 18月 認知症を地域で見守る
- 19火 乳がんの薬物療法
- 20水 フットケア～足からの健康～
- 21木 乳がん検診を受けましょう

※講座内容は変更になる場合がございます。

★の講座の参加は、事前に電話をお願いします。
(持ち物等をご案内します)

TEL.076-422-1112(ふれあい健康講座担当まで)

The Idea of the Toyama City Hospital

富山市民病院の基本理念

使命
MISSION

富山市民病院の存在意義

私たちは医療を通して皆様の健康を守り、豊かな地域づくりに貢献します。

価値観
VALUE

我々が何を大切にしていくなかのキーワード

- 信頼 安全・安心、満足、透明性
- 思いやり やさしさ、やすらぎ、おもてなし、親切
- 良質 技術、知識、向上心、科学的
- つながり 連携、チームワーク、わかりやすさ
- 俊敏 迅速、効率的、的確

展望
VISION

将来どのような姿を目指すのか

地域医療に不可欠な信頼される中核病院となる

- 救急医療、災害医療に強い病院になる
- 質の高い急性期医療を担う病院になる
- シームレスな地域医療を築き安心を提供する病院になる

富山市民病院マガジン[きよら] / No.110: 2023年10月号

発行 富山市立富山市民病院 広報委員会

〒939-8511 富山市今泉北部町2-1

TEL. 076-422-1112 FAX. 076-422-1371

<https://www.tch.toyama.toyama.jp/>

富山市立富山市民病院



日本医療機能評価機構